

第1章

総論

学校メンタルヘルスリテラシー（MHL）教育を推進する活動を開始してから約10年間の経過しました。この間、継続的な教育の取り組みにつながることでできた学校はいまだ少なく、活動するスタッフの確保に奔走している状況にあります。しかし、それでも活動をはじめた当初に比べると、私たちはたくさんの経験を重ね、活動を進めるためのノウハウのようなものを数多くえることができました。Part 3は、このような私たちの経験をもとに、中学生を中心とする子どもたち、子どもを取り巻く「もっとも身近な大人」である教員や保護者に向けて、学校MHL教育をどのように届けていけばよいか、を示すものです。

学校でのMHL教育を子どもたちに届けていくうえでは、重要なポイントは6つあります。

- ① 学校MHL教育を知ってもらうこと。
- ② 活動する場所（学校）を確保すること。
- ③ 活動する人を集めること、取り組む関係者のネットワークを築くこと。
- ④ 提供する教育プログラムの質の安定をはかること。
- ⑤ 教育プログラムを定着させること。
- ⑥ 円滑な教育提供を行うための実施体制、バックアップ体制・組織をつくること。

6つの視点について、以下に概要を示します。

1) 学校MHL教育を知ってもらうこと

わが国において、学校におけるMHL教育の考え方や必要性は、残念ながら諸外国と比較して社会全体に知られていないのが現状です。そこで、2章ではプログラムに関する広報を、4章ではプログラムを実践する仲間の探し方、5章では講師を養成する研修会につ

いて述べています。これは少しでも多くの人に MHL 教育の考え方を知ってもらうことが重要であると考えたためです。

2) 活動する場所（学校）の確保

学校における MHL 教育を行う場合、初期の段階において、実施する場所（学校）を自らの足を使って開拓する作業が必要になります。しかし、一口に学校、行政機関といっても組織内にはさまざまな部署があります。普段の生活や仕事でこれらの組織とのかかわりが少ない方の場合、組織について知る機会もあまりないのではないのでしょうか。第3章では、活動場所を確保するための方法、学校や地域、行政機関の特徴や働きかけ方について紹介します。

3) 活動する人を集めること

学校 MHL 教育は、私たちの開発したプログラムを活用していただければ最低1人でもできます。また精神保健医療や福祉、学校教育に携わる方であればそれぞれの経験を活かしてよりよくできるでしょう。しかし、皆さんが活動される地域の学校に、MHL 教育を効果的かつ継続的に届けるためには、複数の講師などのスタッフが必要です。そのため人員の確保が課題となります。また学校開拓ひとつにしても、人のつながりが大事にされますから、さまざまな経験や立場が重要になります。4章を中心に、できる限り多くの方の協力を得るための方法について述べます。

4) 提供する教育の質の安定をはかること

学校で生徒の授業として取り組むからには、教育の質の確保は重要です。このプログラムは学校教員以外の人たちでも授業が行えるように構造化されており、教育を実践する人の職種は限定していません。実際に学校 MHL 教育に意欲的な人たちは、精神保健医療福祉の関係者が中心です。教育の専門家ではない精神保健医療福祉関係者が効果的に教育を実践できるよう、5章では講師養成研修会について述べます。7章では適切な教育実施計画の立案について、10章で教育活動の成果を評価することについて述べます。

5) 教育を定着させること

学校 MHL 教育は、6章で述べるプログラム導入だけではなく、導入後の活動定着にも難しさがあります。一時的な賛同を得ても、教育効果が期待できないと学校に判断されてしまえば、教育の継続は実現できません。安定したスタッフの確保のために事務局の体制づくり（8章）や教育活動の定着・継承（9章）が重要です。

6) 円滑な教育提供を行うための支援体制をつくること

学校で MHL 教育プログラムを継続的に提供していくためには、学校における教育プログラム提供のほかに、学校開拓をはじめとするさまざまな業務が存在します（3章）。私

私たちはこれらの業務を行う組織を事務局と呼び、円滑に教育プログラムを提供するためのバックアップ機能を行うために不可欠の存在と考えています（8章）。実際に教育を行う以外にプログラムを実施する学校と連絡調整をする業務や、教育プログラムを実施するスタッフを配置する業務、実施する学校を広げ、地域と連携する活動、また養成のための研修会を実施する活動などが重要になります。

本 Part は私たちにとっても現在進行中のことが多く、情報の整理が不十分であることを最初に述べておきます。しかしここで述べられていることは、私たちの実践経験から得た学びの集大成ともいえる箇所です。さまざまな地域から、さまざまな立場の方で構成された、私たち研究会の活動そのものであると理解していただき、これから各地域においてプログラムを導入しようとされる皆様のお役に立てればと願っています。